

令和8年度
学校だより

瑞穂

札幌市立稲穂中学校
「全国学力調査結果」特別号
令和8年10月8日発行

学校教育目標 知性あふれ 逞しく生き抜く 心豊かな生徒の育成

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について② 【中学校英語（話すこと）】

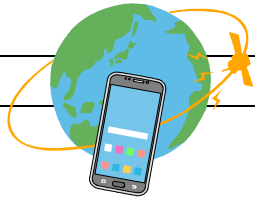
本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
全国平均とほぼ同程度、またはやや上回っている。標準偏差が小さく生徒間の学力格差が少ないことから、学校全体として基礎的・基本的事項の習得レベルが安定している。 	・「社会的な話題に関して、聞いたことについて考えとその理由を話す」場面において、「自分の好きなもの」といった身近な話題とは異なり、発話のハードルが高く、客観的なテーマへの取組が課題と言える。 ・電話でのやり取りで、「留守電の質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える」場面において、相手の質問を聞き取り、それに応じた適切な情報を伝える対話力にやや課題がある。	・授業内で「学校や地域、社会の課題について自分の意見とその理由を伝え合う活動」を少しずつ取り入れ、抽象度の高いテーマにも対応できる表現力の育成を目指す。自分のアイデアをもとにさまざまな語彙や文法事項をもとに教科書の題材を活用して伝えたり、書いたりする活動を取り入れたい。 ・相手の要望を正確に聞き取るリスニング力の向上が不可欠であるため、音声情報を聞き取って応答するトレーニングを定期的に取り入れる。

生徒質問紙による生活や学習に関する調査について

- 肯定的な回答の割合が多い、または全国の結果と同程度の質問項目
- 肯定的な回答の割合が全国の結果より低い質問項目

【生活・行動面】

- 学校の勉強のことにについて、親や家族と話す
- 人の役に立つ人間になりたい。
- 先生はあなたの良いところを認めてくれると思う
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 学校に行くのは楽しい
- 読書は好きである
＊平日の読書時間、家庭にある本（雑誌等を除く）の冊数も全国平均をかなり上回っている。
- 自分にはよいところがある。
- 将来の夢や目標をもっている。

- 
- 友達関係に満足している
 - 学級で、人と違う意見を言っても否定されない
 - 地域や社会をよくするために何かしてみたいか
 - 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話などで SNS や動画視聴などをしますか（学習・ゲームは除く）
→3時間以上使用者は全国平均より多く、1時間未満使用者は全国平均より少ない

【 学習面 】	
○授業で、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っている ○学習した内容について、次の学習につなげることができている。 ○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる ○国語、数学の勉強は将来役に立つ ○国語・英語の勉強は得意、好き	●1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT 機器をどの程度使用したか ●自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表する ●先生は授業やテスト間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる ●数学の勉強が好き ●学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか →2時間以上は全国平均より少なく、全くしないを含む1時間未満の生徒は全国平均より多い（土日も同じ傾向）



「人の役に立つ人間になりたい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」など、他者との関わりを大切にしたり、社会貢献や社会参画を意欲的に考える生徒が多いように推察されます。また「自分にはよいところがある」「夢や目標をもっている」という回答は肯定的・否定的回答が全国平均より共に多い傾向にありました。読書について、習慣化している生徒が多く、ご家庭でも読書がしやすい環境にあるようです。これは、ここ数年の本校の傾向でもあります。一方、携帯端末について、学習目的以外の使用時間が全国平均より長い傾向にあり、時間管理の面などに粘り強く取り組む必要があるようです。学習については、意欲的に取り組んでいる生徒は一定数いますが、習慣化していない・もう一歩という生徒も多い、という結果がでています。携帯端末の使用時間が長ければ、学校の授業以外の学習時間が短くなる傾向は、全国のみならず本校でも同様の傾向にあり、それは学習の成果にも表れている（携帯端末の使用が長ければ、学習面での成果が表れにくい・伸び悩みの傾向にあるなど）と考えられます。

その他、ICT 機器の授業での活用機会が少ない傾向にあり、活用することが必ずしも是というわけではないでしょうが、活用の在り方を含め、効果的な活用方法を見出していくことが学校としての課題であることが改めて示されたと考えます。これらの課題の解決に向け検討を重ね、教育課程や日々の学習活動の改善に生かしていきたいと思っています。

＊・生徒一人ひとりに、英語（4技能）の個人票を返却しています。今後の学習の参考にしてください。

・「令和8年度 全国学力・学習状況調査」についての全国的な傾向や分析については、文部科学省及び国立教育政策研究所のホームページの報告書・調査結果資料として公開されています。

【国立教育政策研究所ホームページ URL】

<https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html>

